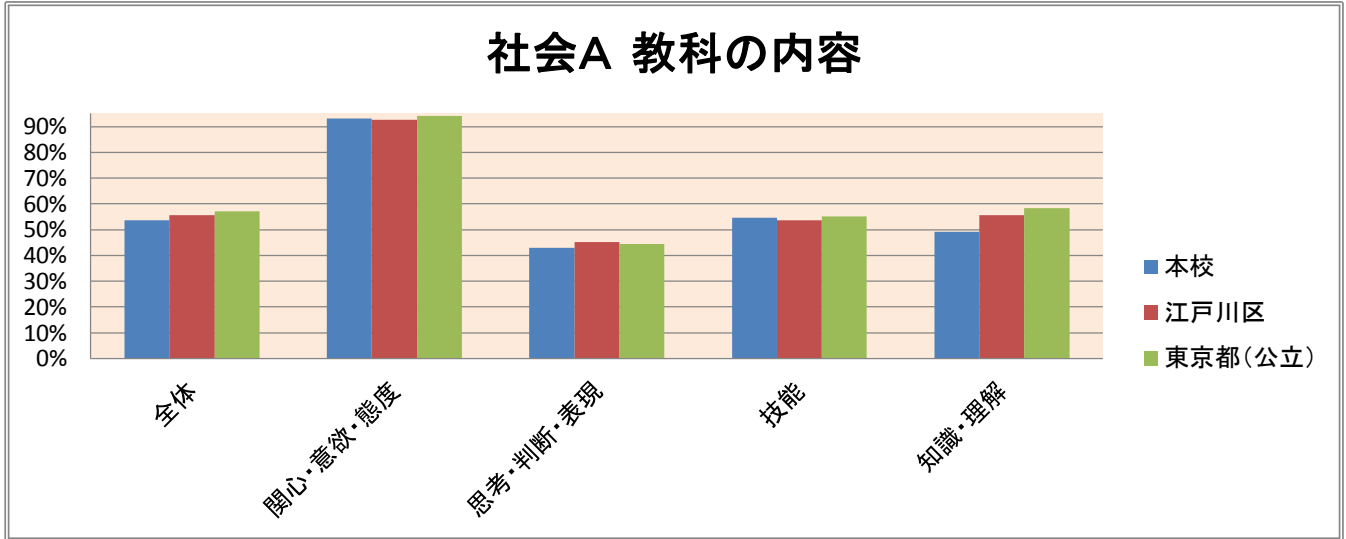


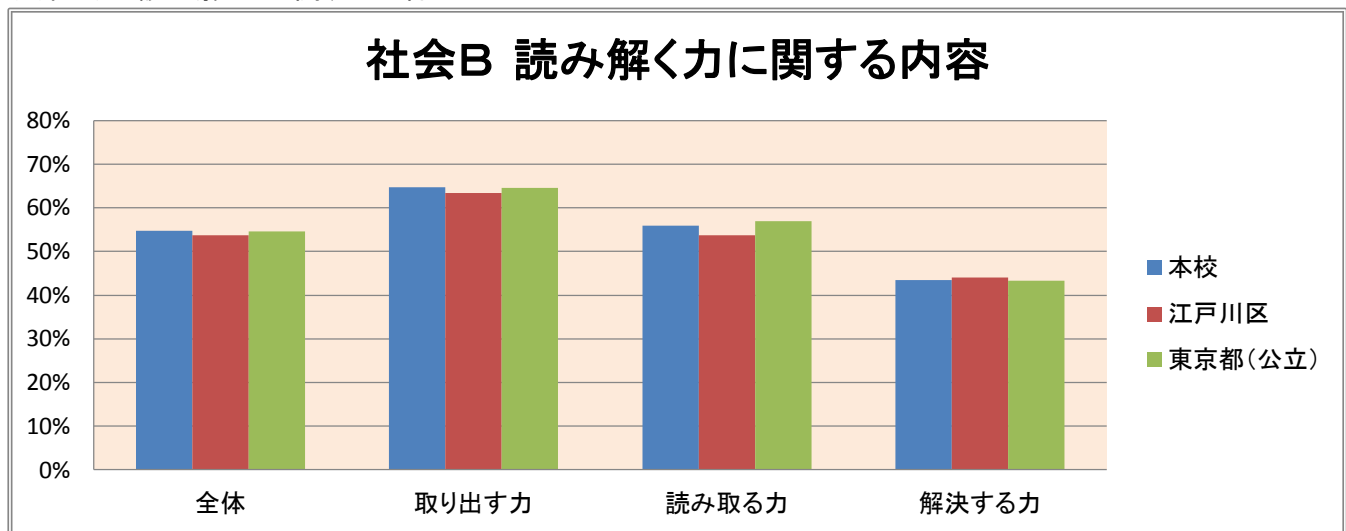
1. 分類ごとの平均正答率

(1)社会A:教科の内容



社会Aの教科内容は、すべての観点で東京都の平均を下回っている。「知識・理解」の正答率が特に低いが、今回の試験では授業進度の都合上、地理的分野の中で一部未履修の問題が出題されたことが影響した可能性がある。授業の中では、様々な資料を読み取り学習課題を考える実践を行なっているため、「技能」の観点では東京都の平均程度の結果が出たと考えられる。

(2)社会B:読み解く力に関する内容



社会Bの読み解く力に関する内容では、全体で見ると江戸川区および東京都と同程度の結果が出ている。「取り出す力」および「読み取る力」に関しては、班ごとに異なる資料を配布して全員で意見を出し合いながら協力して学習課題へ取り組む「協調学習」や「ジグソー学習」を取り入れた授業実践の成果が出ていると考えられる。

2. 今後の生活に活かすポイント

- ・「覚えるだけの社会科」からの脱却を目指す必要がある。「AI時代」と呼ばれる現代において必要な力は、必要な資料を取り出し、自ら分析して考えを示し、他者に伝えていく力である。基礎的・基本的事項として、小テストなどをもとに重要語句を知識として押えた上で、資料と対話し、仲間と協力して、自らの考えを発表する機会を授業の中で設けていく。
- ・効果的に学習の成果を上げるためには生徒が学習内容に対して「興味・関心」を持つことが不可欠である。社会科の授業では、写真資料や実物資料、エピソード話な身近な生活に関わる事象などを紹介し、生徒が主体的に学習に取り組むよう工夫する必要がある。